

第3章 史跡英彦山の価値と構成要素

3-1 史跡英彦山の価値

英彦山は、歴史上または学術上の価値が高いと認められ、国の史跡に指定された。これらの価値は、英彦山の史跡指定理由を踏まえ、以下の2つの点から捉えることができる。

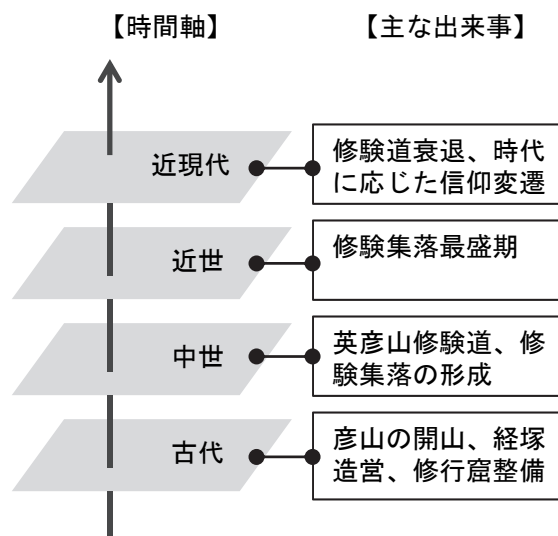
(1) 歴史上の価値

英彦山は、標高約1200mの南岳、北岳、中岳の三峰から成る。古代から現代まで続く信仰の山であり、我が国有数の修験道場である。古代に、神体山として確立した彦山は、神仏習合や末法思想の隆盛などの影響から山上祭祀として多数の経塚が営まれ、山中を修行の場とする49の修行窟が整備された。中世に入ると、神仏習合による彦山権現が誕生し、境内伽藍や院坊が各谷に配置される修験集落が形成された。その後、組織化された入峰修行が開始されると、山中に備宿、籠水宿といった峰中宿等が整備された。近世には、戦国動乱期に坊社堂宇を失い、諸大名の庇護の元で再興を遂げ、参道を主軸に多数の坊舎が立ち並ぶなど、修験集落の最盛期を迎えた。近現代に入ると、神仏分離令や修験宗廃止により修験道、山岳信仰は衰退するものの、英彦山霊仙寺は英彦山神社（現、英彦山神宮）、山内にある窟は末社神社として存続している。また、座主家は英彦山神社の宮司家となり、これらの信仰が受け継がれている。

このように英彦山の信仰は、古代から現代まで時代に応じて変化し、継承されてきている。英彦山は、これらを物語る遺構や遺物が検出され、大規模な修験集落が形成されていたことが明らかにされている。このため、英彦山は我が国にとって欠くことのできない歴史上の価値を有している。

(2) 学術上の価値

英彦山の調査研究は、昭和33（1958）年の田川郷土研究会による『総合研究報告英彦山』の発刊以降、英彦山の調査研究は町や研究者等により進められ、これら調査研究を総括して平成27（2016）年度に『英彦山総合調査報告書』が刊行された。この総合調査では、史跡としての遺構・遺物調査に留まらず、英彦山神宮や宿坊等に残される重層的な歴史を示す歴史資料調査、祭事や芸能等に見られる現代まで続く信仰を物語る民俗資料調査、多くの参詣者を集めた英彦山神社や宿坊等に残る美術工芸資料調査、社殿や宿坊等の建造物や庭園の調査といった、多面的な側面から調査研究が進められた。遺構・遺物調査では山内の遺跡群の



図表 106 英彦山の歴史的経過

包括的な実態の把握、歴史資料調査では未整理資料の分類・整理、民俗資料調査では英彦山神宮と周辺地区の祭事・芸能の実態の把握、美術工芸資料調査では松養坊を対象とする悉皆調査による実態把握、建造物・庭園調査では建造物の構造や庭園意匠デザインの調査・分析が進められた。

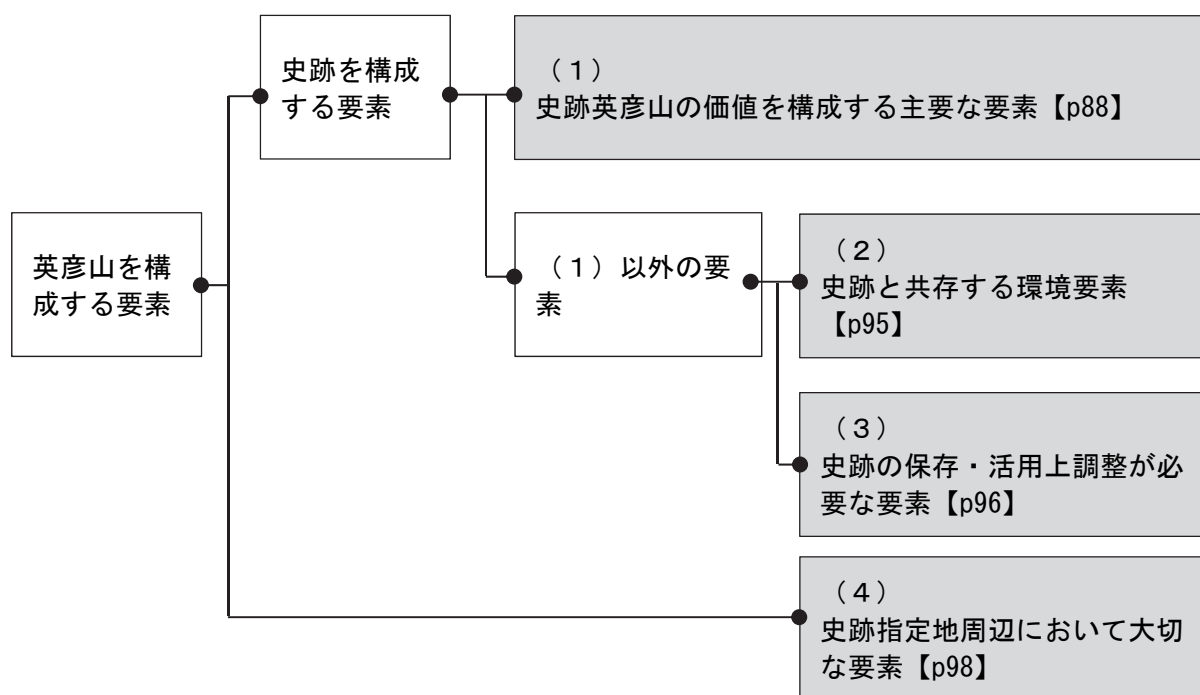
このように英彦山は、多面的な分野における学術的な調査研究の対象となっている。これら多面的な分野の調査研究を通じ、これまで漠然と認識されていた英彦山領域が現在の大字英彦山の範囲と同等であることが明らかにされた。また、航空レーザー測量の分析を通じて、門前や山中坊集落跡において 645 以上の平坦面が確認された。

英彦山は、山頂の聖域から俗人の住む門前町までを包含する独自の大規模修験集落が形成されていた点に特徴がある。また、他では見られない形態の修験集落を有し、信仰が営まれている。日本の修験・仏教・神道の信仰の在り方を考える上で、新規性や進歩性のある調査研究の成果を得られる可能性を包含しており、学術的な価値を有している。なお、広大な範囲を有することから、これまでの総合調査で検出されていない遺構や遺物、明らかにされていない歴史を有している。

3-2 英彦山の価値を構成する要素

前述の「史跡英彦山の価値」を踏まえ、英彦山を構成する要素を以下に整理する。

史跡指定地内に所在する要素は、史跡を構成する要素とし、史跡指定地外において「(1) 史跡英彦山の価値を構成する主要な要素」と同等の価値を有すると考えられる構成要素は、「(4) 史跡指定地周辺において大切な要素」とする。これらの要素を各要素の概要は、次頁以降に示す。



図表 107 英彦山を構成する要素の分類

（１）史跡英彦山の価値を構成する主要な要素

史跡英彦山の価値を構成する主要な要素は、英彦山の空間構造を示す遺構、信仰の変遷を物語る遺構や遺物である。

英彦山の空間構造を示す遺構は、四土結界の空間領域を示す銅、石、木の鳥居がある他、空間の規模を示すレーザー測量で明らかにされた平坦面がある。

信仰の変遷を物語る遺構や遺物は、経塚跡や峰中宿跡などの埋蔵遺構、英彦山神宮の社殿や石塔などの石造物、座主院等の石垣や石段、門前大門筋に配された池泉庭園を有する宿坊跡群と宿坊の石垣などといった建造物、窟の巨石などがある。



図表 108 鳥居（下宮の石鳥居）



図表 109 平坦面（報恩寺跡）



図表 110 社殿（上宮拝殿）



図表 111 窟（般若窟（玉屋神社））



図表 112 峰中宿跡（備宿）



図表 113 宿坊（財蔵坊）



図表 114 座主院跡



図表 115 石仏（今熊野窟摩崖仏）

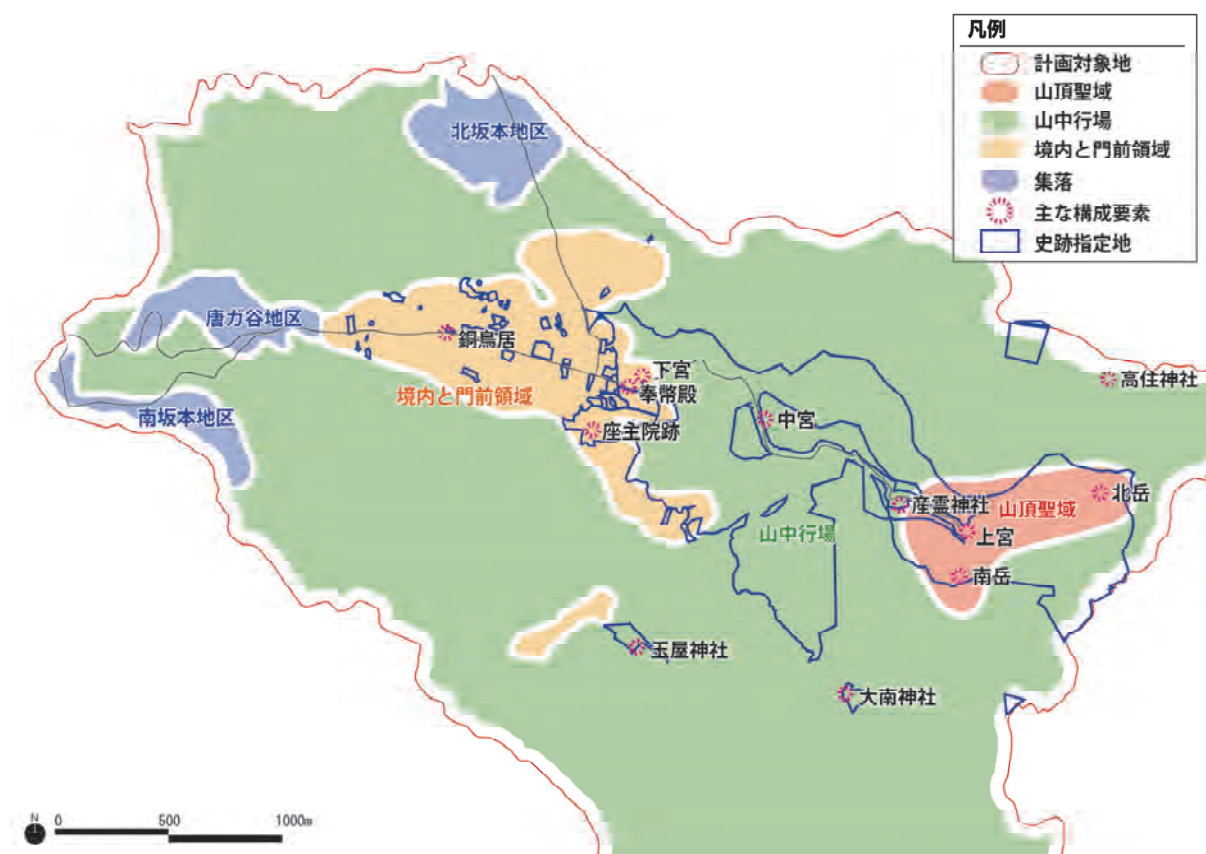


図表 116 石祠（登拝道沿いの護法神）



図表 117 石碑（行者堂の石碑）

構成要素は、第2章における英彦山の空間構造を踏まえ、四界領域毎に整理する。



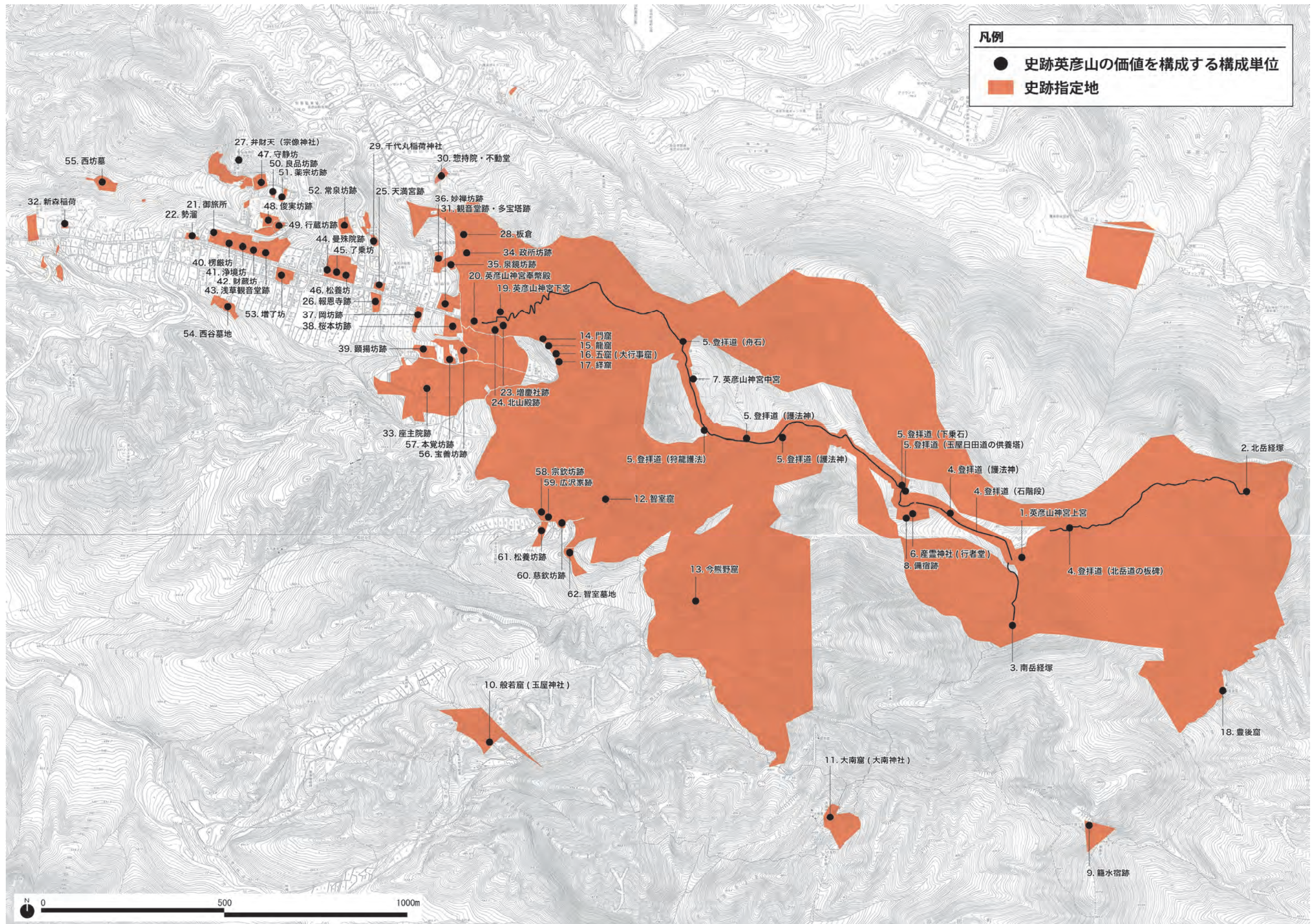
図表 118 英彦山の空間構造と史跡指定地

図表 119 史跡指定地内における「史跡英彦山の価値を構成する要素」(1/2)

空間特性		構成単位	構成要素	No
山頂領域		英彦山神宮上宮	平坦面、本殿、拝殿、石基壇、石垣	1
		北岳経塚	平坦面、埋蔵遺構、金銅仏(1基)、銅筒(1基)、経塚(1基)	2
		南岳経塚	平坦面、埋蔵遺構、経塚(1基)	3
		登拝道	木鳥居、石階段、北岳道の板碑(2基)、護法神(1基)	4
山中行場		登拝道	石鳥居、玉屋日田道の供養塔(1基)、舟石、下乗石、狩龍護法、護法神(2基)	5
		産霊神社(行者堂)	平坦面、拝殿、板碑(6基)、池跡、閼伽井	6
		英彦山神宮中宮	平坦面、石鳥居、石祠	7
		備宿跡	平坦面、建築物跡(礎石)	8
		籠水宿跡	平坦面、巨石、石碑	9
		般若窟(玉屋神社)	平坦面、社殿、供養塔(2基)、石塔(2基)、狛犬(2基)、石垣、石段、巨石窟	10
		大南窟(大南神社)	社殿、石垣、巨石窟、社叢	11
		智室窟	平坦面、巨石窟、板碑(14基)、五輪塔、十一面観音像	12
		今熊野窟	巨石窟(梵字岩)、磨崖仏、板碑(2基)	13
		門窟	平坦面、巨石窟	14
		龍窟	平坦面、巨石窟	15
		五窟(大行事窟)	平坦面、巨石窟、石組基壇	16
		経窟	平坦面、巨石窟	17
		豊後窟	巨石窟	18
境内と 門前領 域	境内	英彦山神宮下宮	平坦面、本殿、幣殿、拝殿、灯籠(3基)、石祠(1基)、手水鉢(1基)	19
		英彦山神宮奉幣殿	平坦面、奉幣殿、手水舎、梵鐘、石塔(5基)、石段、石垣	20
		御旅所	平坦面、社殿、庭園、石碑(1基)	21
		勢溜	平坦面、下乗石、石灯籠(1対)、銅製灯籠(1対)、石塔(1基)	22
		増慶社跡	平坦面、板碑(8基)、石垣	23
		北山殿跡	平坦面、石垣	24
		天満宮跡	平坦面、放生池、社祠(1基)、石垣	25
		報恩寺跡	平坦面、宝篋印塔、石垣、	26
		弁財天(宗像神社)	平坦面、石祠、板碑(3基)、庚申碑(2基)	27
		板倉	平坦面、板倉	28
		千代丸稻荷神社	平坦面、石祠	29
		惣持院・不動堂	平坦面、板碑(6基)、三日月池、石垣	30
		観音堂跡・多宝塔跡(招魂社)	平坦面、石垣、供養塔(11基)	31
		新森稻荷	平坦面、石祠(1基)、無縫塔	32
	座主院	座主院跡	平坦面、仏堂跡、庭園(2園)、石垣、石段	33

図表 119 史跡指定地内における「史跡英彦山の価値を構成する要素」(2/2)

空間特性		構成単位	構成要素	No
境内と 門前領 域	上霊 仙谷	政所坊跡	平坦面、庭園、石垣	34
		泉鏡坊跡	平坦面、石垣、石段	35
		妙禅坊跡	平坦面、石垣	36
	中尾谷	岡坊跡	平坦面、石垣	37
		桜本坊跡	平坦面、石垣	38
		顕揚坊跡	平坦面、石垣	39
	下谷	楞嚴坊	平坦面、坊舎、石垣	40
		浄境坊	平坦面、坊舎、塀、門、石垣	41
		財蔵坊	平坦面、坊舎、塀、門、石垣、庚申碑(1基)	42
		浅草観音堂跡	平坦面、輪蔵跡、石垣	43
		曼殊院跡	平坦面、庭園、石垣	44
		了乗坊	平坦面、坊舎、石垣	45
		松養坊	平坦面、坊舎、門、塀、石垣	46
		守静坊	平坦面、坊舎、石垣、しだれ桜古木	47
		俊実坊跡	平坦面、石垣	48
		行蔵坊跡	平坦面、石垣	49
		良品坊跡	平坦面、石垣	50
		薬宗坊跡	平坦面、石垣	51
		常泉坊跡	平坦面、石垣	52
	西谷	増了坊	平坦面、坊舎、門、塀、石垣	53
		西谷墓群	平坦面、墓石群、板碑(1基)、庚申碑(1基)	54
		西坊墓	平坦面、墓石群	55
	南谷	宝善坊跡	平坦面、石垣	56
		本覚坊跡	平坦面、石垣	57
	智室谷	宗欽坊跡	平坦面、石垣	58
		広沢家跡	平坦面、石垣、板碑(1基)	59
		慈欽坊跡	平坦面、石垣	60
		松養坊跡	平坦面、石垣	61
		智室墓地	平坦面、墓石群	62
共通	上記以外の遺構、遺物			



図表 120 史跡英彦山の価値を構成する構成単位

(2) 史跡と共存する環境要素

史跡と共存する環境要素は、英彦山の豊かな環境により長い年月をかけて育まれた自然や景勝地に係る要素である。

英彦山は、県内でも貴重なブナ林が分布する他、県指定文化財にもなっているブッポウソウといった動物や貴重な昆虫が生息している。また、火山活動などにより形成された高原上の地形や、峡谷に流れる水系、修行窟に見られるような巨石が散在する。このような貴重な動植物や自然地形が評価され、計画対象地全体が耶馬日田英彦山国定公園に指定されている。

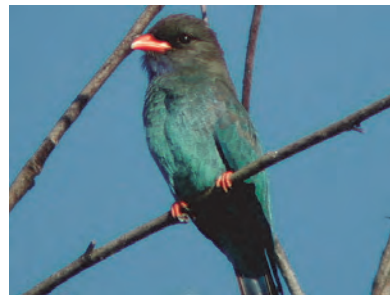
山頂域は重要な場として特別保護地区並びに第1種特別地域に指定され、その自然環境が保全されている。また、英彦山の山頂より南西側一体は、貴重な樹種の遺伝資源の保存を目的とする林木遺伝資源保存林にも指定されている。



図表 121 ブナ林
(中岳～北岳付近)



図表 122 巨石
(智室窟付近)



図表 123 ブッポウソウ
【出典：Wikipedia】

図表 124 史跡と共存する環境要素

名称	備考
自然地形	地形、水系、巨石 など
貴重な植物	ブナ林 など
貴重な動物、昆虫	ブッポウソウ、タカチホヘビ など

（３）史跡の保存・活用上調整が必要な要素

史跡の保存・活用上調整が必要な要素は、「史跡英彦山の価値を保存するために共存が必要となる要素」や、「史跡英彦山の価値を来訪者に知ってもらうための要素」、「史跡英彦山の価値を総合的に活用するための要素」、「史跡英彦山の価値を損ねている要素」に分けられる。

史跡英彦山の価値を保存するために共存が必要な要素は、社務所や守札所、神輿庫等といった信仰活動をする上で必要な施設、英彦山の価値を構成する要素や来訪者を自然災害から守るためのよう壁や消火設備等の防災施設がある。



図表 125 神輿庫
(英彦山神宮奉幣殿周辺)



図表 126 よう壁
(英彦山神宮奉幣殿南側付近)



図表 127 消防用水
(英彦山神宮奉幣殿東側付近)

史跡英彦山の価値を来訪者に知ってもらうための要素は、広大な範囲に及び、多岐にわたる歴史・文化を有する英彦山を学ぶことができる英彦山修験道館やスロープカー花駅にある山伏文化財室、座主院があった土地に位置する九州大学彦山生物学実験施設といった情報発信施設がある。また、史跡英彦山の価値を現地で学ぶことができる解説板や総合案内板、構成要素の場所へ案内するための誘導サインといった情報発信設備がある。



図表 128 英彦山修験道館



図表 129 解説板
(松養坊前)



図表 130 誘導サイン
(英彦山神宮奉幣殿東側付近)



図表 131 山伏文化財室
(スロープカー花駅内)



図表 132 九州大学彦山生物学実験施設（座主院跡）



図表 133 総合案内板
(英彦山神宮銅鳥居の西側)

史跡英彦山の価値を総合的に活用するための要素は、英彦山への交通アクセスである道路、英彦山内を回遊するためのスロープカー、エレベーター、登山道、管理用通路等といった交通施設がある。その他、来訪者を受け止めるための駐車場やトイレ（上水パイプなども含む）、ベンチ等といった便益施設がある。



図表 134 ベンチ
(英彦山神宮奉幣殿南側付近)



図表 135 スロープカー



図表 136 トイレ
(スロープカー神駅付近)

史跡英彦山の価値を損ねている要素は、史跡英彦山の価値を構成する要素を毀損させている樹木や動物、山内の工事のために新設される管理道、倒木がある。



図表 137 石垣を毀損させる樹木
(慈欽坊跡)

図表 138 史跡の保存・活用上調整が必要な要素

	名称	備考
史跡英彦山の価値を保存するために共存が必要となる要素	信仰を継承する上で必要な施設	神輿庫、社務所、守札所、倉庫棟 など
	防災施設	よう壁、屋外消火栓、消防用水 など
史跡英彦山の価値を来訪者に知ってもらうための要素	情報発信施設	英彦山修験道館、山伏文化財室、九州大学彦山生物学実験施設 など
	情報発信設備	解説板、総合案内板、誘導サイン など
史跡英彦山の価値を総合的に活用するための要素	交通施設	道路、スロープカー、エレベーター、登山道、九州自然歩道、管理用通路、工事で新設される管理用通路 など
	便益施設	駐車場、トイレ、ベンチ、上水パイプ など
史跡英彦山の価値を損ねている要素	樹木	史跡の価値を構成する要素を毀損させる樹木、倒木 など

（４）史跡指定地周辺において大切な要素

史跡指定地周辺において大切な要素は、英彦山領域内にあるものの、史跡指定地内にはない要素である。英彦山領域は、江戸時代に所領安堵され、小倉藩などに知行寄進を受けて成立した範囲で、英彦山を中心とする四土結界の思想の下で神領と認識されていた重要な範囲である。この範囲内にある要素は、英彦山信仰や宗教活動を通じて創出された、欠くことのできないもので、史跡に英彦山の価値を構成する主要な要素と同等の価値を有する要素である。

英彦山神宮銅鳥居や高住神社（豊前窟）等といった社殿、文殊窟や大河辺窟等といった窟、顕揚坊や正賢坊等といった宿坊、鬼スギや鷹巣山、材木石等といった植物、地質鉱物がある。その他、レーザー測量により検出された、かつて宿坊等が立地していたと考えられる平坦面がある。

なお、英彦山領域は広大な範囲で、検出されていない遺構や遺物も多く有していると考えられる。これらの要素は英彦山を解明する上で重要な要素と捉えることができる。

図表 139 史跡指定地周辺において大切な要素

種別	備考
社殿	英彦山神宮銅鳥居、高住神社（豊前窟） など
窟	文殊窟、大河辺窟、不動窟、牛窟 など
宿坊	顕揚坊、正賢坊、了乗坊 など
植物、地質鉱物	鬼スギ、鷹巣山、材木石 など
修験集落を構成する平坦面	レーザー測量で確認された平坦面
検出されていない遺構、遺物	